

山ノ内町立学校づくり準備委員会 会議結果報告書

会議名	第9回 山ノ内町立学校づくり準備委員会
日時	令和8年1月14日(水) 午後5時30分～午後7時30分
会場	山ノ内町文化センター 3階ホール
出席・傍聴人数	出席 19人 / 欠席 10人 傍聴者 3人
会議内容	<p>【報告事項】 (1) 前回委員会の会議結果について(資料1)</p> <p>【会議事項】 (1) 山ノ内町立統合学校整備基本方針(案)について『グループ討議』(資料2) 第7,8回の意見を受けて校正した整備基本方針(案)を4グループごとに内容の修正について意見出しを行い、グループ発表により意見の共有を図った。 (2) 来年度における準備委員会等の進め方について『グループ討議』(資料3) 前回の意見を受けて、来年度以降の準備委員会や専門部会の委員構成について、再度意見出しを行った。特に高校生・大学生といった若者や教職員の意見、会議への参加について議論され、その内容をグループ発表した。</p>
決定事項等	・第10回学校づくり準備委員会 2月9日(月)17:30～ 山ノ内町文化センター
会議概要及び質問・意見等	<p>【山ノ内町立統合学校整備基本方針(案)について】</p> <p>① 計画の全体像・表現に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務的な文言を避け、未来への願いが伝わる明るい表現にしたほうがよい。 (例:「余白を残す」「未来を共に作る」等) ・こどもが読んで内容を理解できるよう、簡略版などの作成を検討してほしい。 ・「オールやまのうち」という言葉は、郷土愛を育むような内容をつけたほうがよい。 <p>② 施設整備・学習環境に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来的な児童生徒数の推移を踏まえ、教室数や保健室は一つでよいのか検証が必要だと思う。 ・オープンスペースについて、集中が必要な児童に配慮し、可動式の壁を活用した「オープンとクローズの共存」を実現できるとよい。 ・完成形を固定せず、将来の教育課程の変化や地域のニーズに対応できる「余白」を設ける内容を明記したほうがよい。 <p>③ 特色ある教育・スケジュールに関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールにこどもの意見聴取として「まちづくりこども委員会」を入れたほうがよい。 ・ESD(持続可能な開発のための教育)や外国語教育など、新校が特化するセールスポイントを明確に打ち出すべきである。 <p>④ 空き施設の利活用に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の保護者の居場所や交流拠点も欲しいと思うので追加してほしい。 ・低単価で利用可能な宿泊機能(コンドミニウム等)があると山ノ内町に親族や友人を呼びやすくなる。

会議概要及び
質問・意見等

【来年度における準備委員会の進め方について】

① 学校づくりユースサポーター（若者）の参画・募集について

- ・中高生は部活動等で多忙なため、開催曜日や時間設定の検討が重要。
- ・「必ず参加しなければならない」という義務や縛りを設けず、都合のつく時に参加できる柔軟な仕組みにしてはどうか。
- ・会議をよりカジュアルな場とし、お菓子の提供といった若者が参加しやすい雰囲気作りがあるとよい。
- ・1人では発言しづらいため、部活動単位など、仲間と一緒に参加できる工夫を取り入れる。
- ・ネットや広報の活用に加え、文化祭等の現場へ直接宣伝に行くなど、積極的なアプローチが大事になってくる。
- ・移住してきた子どもや、親が「山ノ内ファン」である家庭の子どもなど、町の魅力に敏感な層にからも参加して意見をもらうのはどうか。
- ・「20歳を祝う会」の会場にボードを設置し、付箋で意見を募るのもよいと思う。その際、お菓子等のプレゼントを用意し、参加意欲を高める。

② 教職員の意見聴取と関わり方

- ・教職員を会議の場に集めるのは時間的に困難なため、オンラインでの意見交換や、既存の学年会・職員会議等の機会を柔軟に活用する。
- ・学校内に「ご意見箱」を設置するなど、物理的な距離や時間を超えて声を吸い上げる仕組みを検討してはどうか。
- ・たとえ開校時までには転任する可能性がある教員であっても、準備過程に関わることは本人にとって貴重な経験となる。そのため、現場の教職員を積極的に部会等へ招き入れるべきである。

③ 委員構成および専門部会のあり方

- ・教育課程部会などの専門性が高い部会であっても、あえて「専門外の人」をメンバーに加え、全く別の角度や自由な発想からの意見、議論を活性化させていけたらよい。
- ・学校づくりユースサポーターは「オブザーバー」という立場であっても、常に彼らの意見を聞ける場面を継続的に設ける。
- ・コミュニティ・スクールの構築において区長会の参画は大事であるが、区長業務の負担軽減や1年任期での交代といった課題もあり、考慮してもよいのではという意見があった。

≪グループワーク総括≫伏木委員長からのまとめ

① 計画の構成と「跡地利用」への視点

- ・基本方針（第2章）は、多くの住民に理解されるよう、内容を整理しコンパクトで読みやすい記述にする。
- ・基本計画（第3章）は、設計や教育課程、運営面において、より具体的に分かりやすい内容にするとよい。
- ・跡地利用（第4章）は、「廃校」という言葉を使わず、町の貴重な財産として行政の縦割りを排し、議員や多くの市民を巻き込んだ「町全体での活用」を検

討してほしい。

② こどもをまんなかに置いた「柔軟な大人」の姿勢

- ・こどもを主体（学校づくりユースサポーター等）とする方針を歓迎する。「素直な子」ほど既存の枠に縛られやすいため、大人が柔軟な姿勢で「枠組みを超えていい」と夢を語らせることが大事である。
- ・「自分たちの力でやりたい」「校則や行事を自分たちで決めたい」というこどもの本音を引き出し、対等に夢を語り合える関係性を築いていく。

③ 「誰一人取り残さない」学びの多様化の推進

- ・不登校や教室に入りづらいこどものために、既存の枠組みにとらわれない「学びの多様化学校」の制度導入や、校内の「中間教室（リソースルーム）」の設置をした事例もあり、すべてのこどもが学校を楽しめるよう、一人ひとりの状況に合わせた居場所と仕組みづくりが大事になってくる。

④ 未来を見据えた「教育のパラダイムシフト」への対応

- ・令和 10 年頃から本格化する新学習指導要領の方向性を学び、「授業時数の弾力化（調整授業時数制度）」も念頭に、過密な教育課程を解消することができる。
- ・こどもたちの居場所の確保や、40 分授業の導入、放課後時間の創出など、従来の学校像を塗り替えるような新しい教育の形を積極的に勉強・研究し、未来の山ノ内町にふさわしい学校づくりを進めていければと思う。

会議概要及び
質問・意見等